

## 添付資料

### 「対話イン長岡2012」 事後アンケート(2012/3/8)

日本原子力学会シニアネットワークとの対話集会にご参加いただきありがとうございました。対話会の事後アンケートにご協力ください。本企画は、今後もさまざまところで継続的に行っていく予定です。皆様よりいただいた感想は次回以降の開催に役立たせていただきたいと思います。

(1) あなたの所属:

(高専:18名; A, B, C, D, F, G, I, K, L, M, N, O, P, Q, R, S, T, U君とした)

(科技大学:2名; E, J君とした)

{補足説明}

参加学生は22名:2名はアンケート回収できず。なお、2名はアンケート用紙の印刷不備があり半分しか回答がなかった。理由欄は、学生が書いたままを記述したので意味不明の内容もある。

シニア参加者は11名。科技大教授1名。講演会には新潟県原子力活用協議会会員6名が参加した(アンケートなし)

(2) 特別講演の内容は満足のいくものでしたか?その理由は?

(とても満足した:B, E, F, I, J, K, L, N, O, P, S, T, U, 13名)

(ある程度満足した:A, B, D, G, M, R, 6名)

(やや不満だ:C1名)

(大いに不満だ:0名)

理由

C:内容がかいつまれすぎよくわからなかった。

D:いろいろな角度から原子力について見れたから。

F:スライドが多かったが、カラーで見やすかった、話もおもしろく、理解しやすかった。

G:もう少し深い所を知りたかった。

I:原発事故の内容から、他の発電との比較など、幅広く再確認することができた。

L:専門家の方々の意見をうかがって、今まで自分でもっていなかった新しい考え方が得られてと思う。

M:時間が短かった。

N:実際に設計された方が、自らが作ったものの事故を題材にされるのは、とてもおどろいた。

O:知識が深まった。

R:資料が見にくかった。

T:いろいろな事を知れたため

U:知らないことをたくさん聞け、貴重な経験ができたから。

(3) 対話の内容は満足のいくものでしたか?その理由は?

(とても満足した: B、E、F、G、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、S、T、15名)

(ある程度満足した: A、C、D、R、U、5名)

(やや不満だ: 0名)

(大いに不満だ: 0名)

#### 理由

D: いろいろの角度から考えられたから。

F: 実際に経験してきた方々との話なので現実味があり良かった。

G: 専門家の人の話はもちろんだが、学生の話の話を聞いてよかった。

I: 楽しく対話出来た。

L: 時代をおっての原発の動きなど、知らないことをたくさん知ることができた。

M: 自分では思いつかないような意見を聞いたから。

N: 自分の思いのままに発言できた。

O: しっかりと内容のある対話だった。

P: 専門家と自分の意見とのギャップを知ることができた。

Q: 切り口がおもしろかった。

R: 特になし

S: 日常ではどうい対話すること無いだろうという方々と、有益に意見交換ができてよかった。

U: OBの方がたから意見をたくさん聞いたが、一方的になってしまった。

#### (4) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

(十分聞くことができた: A、B、C、E、F、G、I、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、18名)

(あまり聞けなかった: D、J、2名)

(全く聞けなかった: 0名)

#### 理由

D: マシンガントーク的な面があり、話すタイミングがつかめなかった。

F: 技大生の方が、質問の時間を設けられたため

I: よくきけた。

L: 聞いたら、ていねいに教えてくださったから。

M: 質問は解決した。

N: 対話のなかで自然とできた。

O: 自分が聞きたかった以上の答えをいただいた。

P: 学生に配慮していただき、積極的に質問することができた。

#### (5) 今回の対話で得られたことは何ですか？

D: 原子力は本当にいろいろなものの複合体だとわかり、一つの視点から考えられるものでないと理解できたから。

F: 人を疑いながら自分自身の意見を持つようにすること。

G: 知識量が異なる人達との意見交換による意見

I: 多人数の意見。

K: 物事を論理的に説明する力。

L: 原発は震災以降、一般の人々からおそれられているが、ただただおそれるのではなく、原発を理解するための正確な教育が必要であること。

M: 話を聞くことの重要性

N: あっているのかわからない自分の考えでも、みなと話あうことで、どういったものなのかを体感することができた。

O: どうすれば一般市民に原子力が理解されるかという問いの答え。

P: 原子力に関する裏話など。

Q: 理系—文系の差、合理性、しくみ。

R: 専門家方々の話を聞くことで、自分の思いや意見を変えることができた。原発を推進したいときの説得の仕方。

(6) 「対話集会」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

(非常にある: B、C、D、E、F、G、I、J、K、L、M、N、P、Q、R、T、16名)

(ややある: A、O、2名)

(あまりない: 0名)

(全くない: 0名)

理由

D: いろいろな人の意見を聴けるから。

F: 意見の食い違い、どちらも疑問に思っていることを解決できるから。

G: 対話によって自分の考え方が広がる。

I: シニアの方々の意見を聞くことは重要であると思う。

L: 生の声を聞くと、考え方が広がる。

M: 様々な意見が聞けるから。

N: 自分中心な意見のない、本当の「対話」をする必要があると思う。

O: 自分の意見を持って参加すれば、考えを深めることができるから。

P: こういう機会を地域住民とたくさんもつことが重要であるから。

Q: コミュニケーション能力の向上

R: 興味深い内容がたくさんあったから。

(7) 今後、機会があれば再度シニアとの対話会に参加したいと思いますか？

(是非参加したい: A、E、F、G、J、M、N、P、R、10名)

(参加したい: B、C、D、I、K、L、O、T、8名)

(あまり参加したくない: 0名)

(参加しない: 0名)

(9) 原子力に対するイメージについて

原子力については安全性を高めて将来も利用すべきという意見と、脱原発など利用すべきでないという意見が有ります。それについて以下の問いに教えてください。

(対話集会前の考え)

(利用すべき:A、B、D、F、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、S、14名)

(利用すべきでない:C、1名)

(分からない:H、R、2名)

(対話集会後の考え)

(利用すべき:A、B、C、D、F、H、J、K、L、M、N、O、P、Q、S、15名)

(利用すべきでない: 0名)

(分からない:R、1名)

**理由**

D: 火力以外で安定力のある発電方法はほかにないから

F: より必要に思った。原子力より、自分たちの定めた基準より危険性が低く、コストも少ないなら、原子力は必要ないが、そのようなものはいまのところないので、原子力は必要。ないとデフレスパイラルになる。

H: 貴重なエネルギー源であるから、でも安全を第一に考えてから。

L: 原発を日本で全て停止したら、その分火力発電にゆだねるところが多くなる。すると、化石燃料の枯渇が加速度的に進み、環境負荷がよりかかり、限界がある。したがって、クリーンエネルギーである原発は欠かせないと思う。

M: エネルギーが足りないから

N: エネルギーの量として、利用すべきである。安定的な供給にはかせないものだと思う。

O: リスクはあるが、ゼロに近づけて利用すれば良い。

Q: 全ての意見を聞いて始めて話し合いができる。

R: すべての話をうのみには出来ない。

S: 日本のエネルギーは原子力が無ければSTOPしてしまう。今後、よいものがみつかるまでは原子力というものをしっかりと理解し、そして使っていく必要があると思う。

**(10) 将来、放射線・原子力に関連する仕事につきたいですか**

(つきたい:A、M、P、S、4名)

(できればつきたい:B、G、J、K、L、N、O、Q、R、9名)

(あまりつきたくない:C、F、H、3名)

(つきたくない:I、1名)

**理由**

D: 分からないです。原子力は日本にとって必要なものだと思いますが。

F: 他につきたい仕事がある。

H: やっぱり怖い

L: 問題は山積みではあるが、やりがいがある。

M: 以前より興味があるから。

- N: 今、自分が志望している職種は原子力ではないですが、将来の方向性として十分に考えたい。  
O: 以前から興味があるので、機会があれば。  
Q: 改善の余地がある分野だから。  
R: 将来に欠かせないエネルギーだから  
S: 今後、さらに厳しくなっていくと思うが、最前線でその問題を捉え、考えながら生きていきたい。

**(10) 原子力に対する関心の低い10代、20代の若年層に対する原子力広報活動は  
どんな方法が良いと思いますか？**

- C: 学校の授業で行えばよい。  
D: 日本の原子力の安全基準は外国にくらべてどうなのかというところを伝えてほしい。閉鎖的な日本の姿勢をかえてほしい。  
F: 学校で授業を設ける。対話のような感じの授業がよいと思う。  
G: テレビ、雑誌  
H: 分からない  
K: 教育(学校)  
L: インターネット  
M: インターネットの活用  
N: 学校での教育(試験も含めて)をすることで、嫌でも知識は入ってくると思う。  
O: エネルギー問題の点から、順をおって説明していく方法をとるといいと思った。  
Q: TV、インターネットの利用。①電力の必要性をのべる。②いろいろな方法の一つとして原子力がある。  
R: 学校での教育は必須。  
S: インターネットや、アニメ、映画など、若年層が興味を持ちやすいように工夫すべき。

**(11) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。**

- F: とてもおもしろく、ためになることばかりだったので、ぜひ来年、再来年など下の代の人にも開催してもらいたいです。  
G: 原発の見学と対話集会在特に良かった。対話集會での質疑応答はでいるだけ時間をとって欲しい。  
H: 今後も続けて欲しいと思う。  
I: シニアの方々の話す機会を減らす。  
K: すみません、アンケートをしっかりと書く余裕がありませんでした。  
N: 最初の不安は全くなくなり、きちんと発言することができた。とてもいい機会でした。  
Q: 時間をもう少しほしかった。  
R: もっと専門的な知識の講義をしたかった。  
S: いちいちアンケートで理由を描くのはしんどい、もうすこし減らすべき。

以上  
集計: 齋藤健彌